

2005年9月30日

陳 述 書

マリック・ベルカヌ

私は、24年前から、日本でフランス語を教えております。この仕事に、私は情熱を注いでおります。この仕事は、人と人とを結びあわせるもので、相手を敬う気持ち、相手に対する信頼の気持ちをベースにしているからです。

この24年、私は、フランスや、ほかのフランス語圏に勉強に行きたい、あるいはそういう国々を訪ねてみたいという、何千人という日本人の生徒さんに、フランス語の勉強のお手伝いをしてまいりました。

その後、フランスで何年間勉強をして、大きな収穫を得て、日本に戻って来られた方々もたくさんいます。科学、建築、数学から、音楽、ファッション、ガストロノミーまで、それはいろいろな分野にわたっています。

フランス語を教えるということは、私の職業であり、また私の人生そのものでもあります。そして、何百人もの生徒さんが通ってくる、語学学校を経営するということは、私の大きな責任であります。

さて、2003年の2月、石原都知事は、フランス語が数の勘定のできない言語であり、国際語としては失格である、という主旨の発言をおこないました。その後、2004年にも、さらに2005年10月にも、さらなる確信を込めて、同じ発言を繰り返しました。

このように、同じ発言がくりかえされると、石原氏は、フランスに対して憎しみを持っているのかと思ってしまう。それはともかくこの発言は、人種差別であるばかりでなく、何よりもまず、虚偽であり、不当なものです！ もしも、このような発言が見過ごされると、また別の人々が、「フランス人は、ろくに生きることもできない人々だ」などと、もっとひどい発言をすることにもなるでしょう。きちんと批判をしなければ、エスカレートしていくのです。

もちろん、石原氏は、プライベートな場では何をおっしゃっても良いでしょう。しかし、今回の発言は、多くの人が集まった公的な場で、しかも都知事として発言しています。知事として、彼にそんなことを言う権利はありません。

このとんでもない嘘の発言を行った時のビデオは、なんと、9ヶ月間も、東京都庁のインターネット・ホームページで公開されておりました。このページには、1ヶ月70万件のアクセスがあると言います。いったい何人の人々が、このビデオを見て、間違った感化を受けたことでしょうか？ 私たちがこの裁判を起こした2日後の7月15日、都庁は、このビデオをホームページから削除しました。削除させるには裁判までおこななければならなかったというわけです。

私は石原氏が、どのような根拠で、フランス語が数も数えられない、知的に劣った言語だと主張しているのか、この裁判でぜひお聞きしたいと思います。数の勘定ができないフランス人など、一人もいません。数の勘定をせずに、社会は存在できません。すべての社会の基礎は、交換と商業にあるからです。デカルトから、パスカルを経て、ラグランジュ、その他、数多くのフランスの数学者が、世界の数学の歴史に残した業績は、誰も否

定できません。

ここで、数学の分野でもっとも権威のあるフィールズ賞の、2002年の受賞者であられる、ローラン・ラフォルジュ氏からこの裁判を起こした私たちに届いたメッセージを読み上げたいと思います。

「石原慎太郎氏には、とにかくご忠告いたします——

どうぞ、ご自分のお国の数学者たちに意見を尋ねてご覧になってはいかがでしょうか。

フランスの、あるいはフランス語でなされた数学について申し上げれば、現時点で44名のフィールズ賞受賞者のうち8名がフランス人であり、他の3名は研究者人生のもっとも長い期間をフランスで過ごした数学者でした」

石原氏は、フランス語が国際語として失格している、とおっしゃる。これは嘘です！フランス語は、世界中の60カ国以上の国々で話されています。国連の公用語の一つです。国際オリンピックの公用語の一つです。国際郵便制度の公用語です。

一つの国、それは、歴史と、文化と、伝統により作られている社会です。それらすべてを結びつけているのは、言葉、そして、言葉によって伝達されるすべてのものです。

石原氏の発言は、フランスの国とフランス人、そして、フランス語でコミュニケーションをおこなっている世界中の人々を侮辱することです。この無責任な発言によって、石原氏は、現在、日本でフランス語を教えている組織が、劣った言語を教えているのだとして、その評価を傷つけ、その良好な運営、経営に害を与えました。

私は、フランス人として、フランス語の教師として、フランス語学校の校長として、また、文化の多様性と人間の尊厳を大切にhumanの一人として、石原氏が、フランス語の価値を日本人の目の前でおとしめてやろうとする目的でおこなったとしか考えられない、虚偽と中傷の発言について、謝罪することを求めます。